兵庫の漁業人のための情報誌

発行（一財）兵庫県水産振興基金

TAKUSUI No.795

1

January.2023

拓水

虹の仲間で森づくり（神戸市西区 神出）

令和5年 年始のご挨拶

CONTENTS

2 新年のご挨拶

6 兵庫県水産賞 受賞者決定
虹の仲間で森づくり
いかなご盛漁期における事故について

7 ＪＦ兵庫漁連 第47回通常総会 開催
Fish-1グランプリ準グランプリ受賞

8 ようそろ
第41回ディスプレイ産業賞受賞 報告会

9 兵庫JCC通信

10 豊かな海を求めて ～これまで、これから～

12 旬に想う
SEAT CLUB 魚介レシピ

新年のご挨拶

躍動する兵庫、新時代への挑戦

兵庫県知事　齋藤元彦

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が広がりを見せてから三年が経過しました。これまでの経験と教訓を活かしながら、感染防止対策と社会経済活動を両立させるウィズコロナの時代に入ったと言えるでしょう。一方、混迷するウクライナ情勢等を背景にした物価高騰や円安が、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしています。

こうした変化の大きな時代だからこそ、受身になることなく、新たな挑戦を起こすことが大切ではないでしょうか。令和五年は「躍動する兵庫」の実現に向け、果敢にチャレンジする年にしたいと思います。

その一つは、新たな産業活力の創出です。中小企業やスタートアップが持っている既存の技術と地域課題とのマッチングを広げ、新たなイノベーションを生み出します。また、水素エネルギーの利活用や中小企業のCO_2排出量削減の支援強化など、脱炭素社会に向けた取組を加速させます。ドローンや空飛ぶクルマなどの次世代モビリティの社会実装にも挑みます。

また、兵庫が関西と瀬戸内の結節点にあるという好立地を活かし、両エリアをつなぐ大交流圏の形成をめざします。大阪・関西万博が開催される二〇二五年には、瀬戸内国際芸術祭も開催される予定です。県内各地をパビリオンに見立てて誘客する「フィールドパビリオン」を核に、関西圏域とは万博に関連した連携事業を、瀬戸内圏域とは芸術・文化等をテーマにした連携事業を行えるよう、着実に準備を進めていきます。

若者の学びの場も充実させます。県立高校等において、魅力・特色あるカリキュラムの充実やICT化を進めることに加え、生徒ファーストの視点で、老朽化が進む学校の施設・設備や部活動の用具・備品等を改善します。中高生からのアントレプレナーシップ（起業家精神）教育も推進し、課題解決に主体的に取り組む力を伸ばします。

県政の推進にあたって、今年ももっとも大切にする姿勢は、現場主義の徹底と対話の重視です。私自身、引き続き積極的に県内各地域に足を運び、医療や交通、観光、教育など様々な課題について県民の皆さまと対話をし、施策につなげていきます。

皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

年頭のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事会長　田沼　政男

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、県内JF組合員の皆様ならびにJFグループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年11月13日に天皇皇后両陛下を明石にお迎えし、全国豊かな海づくり大会 兵庫大会が盛大に開催されました。漁船パレードや放流行事など、素晴らしい大会だったとの感想を両陛下から直接お伺いすることが出来ました。大会実行委員として、光栄に思うとともに、大会で天皇陛下のお言葉にあったように、水産資源を適切に保護・管理し、次世代に引き継いでいくこと、「豊かな海づくりの輪」がここ兵庫県から全国に広がっていくことを目指し、より一層邁進する所存です。

また、昨年10月には全国に先駆け、令和3年6月に改正された瀬戸内海環境保全特別措置法に基づき兵庫県栄養塩管理計画が策定されました。28の下水処理場に加え、5社の民間企業からも栄養塩類が供給されることになります。私たちの取組みが真に豊かな海の実現に向けて一歩ずつ着実に前進しております。今後も漁業者自らが実践できる仕組みの構築を目指して調査と研究を進めて参ります。

さらに、令和2年の改正漁業法の施行を受け、令和5年度までの目標である「TAC管理の漁獲量8割」に向け本県でも続々と管理魚種拡大にむけて会議が進められております。私たちとしましては浜の声も取り入れつつ、慎重に進めていきたいと考えています。

世界の経済情勢に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症については、ワクチン接種が進む中、行動制限の緩和など日本国内においても徐々に社会活動が戻ってきております。しかし、ウクライナを巡るロシアと諸外国の対立、日本と欧米諸国との金融政策の差による円安・ドル高などが燃料費や原材料費の高騰に拍車をかけ、日本の景気回復の足枷となっております。

本会としては、漁業者への供給価格上昇の抑制に努めるほか、兵庫県産魚の販路拡大を推進するべく、漁連の魚屋の多店舗化に向けた検討など、県内の漁獲物の販路を拡大し、魚価の安定に努めて参りますので、県当局をはじめ関係諸団体におかれましては、引き続きご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、令和5年は「癸（みずのと）卯（うさぎ）」年だそうです。物事の終わりとはじまりを意味する「癸」と、飛躍・向上の意を持つ「卯」の二つの文字が組み合わさると、「これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍する」ということを表わすことができます。本県漁業が活気に溢れ、飛躍の一年となりますよう、皆さまのご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

なぎさ信用漁業協同組合連合会
経営管理委員会 会長
社領　弘

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、会員並びに組合員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を顧み感慨深く心に残ることは、兵庫県では2度目となる「第41回全国豊かな海づくり大会」を成功裏に終えることができたことです。

この大会を通じ、漁場環境保全や資源管理等豊かな海の創出に取り組む本県の姿を全国に発信することができました。

関係各位のご尽力に改めまして感謝申し上げるとともに、水産業が次世代に引き継がれ、ますます発展していくことを切に望むところです。

さて足元の国内経済動向を見渡しますと、世界的な高インフレ持続や金融引締めの本格化につられて、景気の回復力も弱まる可能性が高いことから、日本銀行は、昨年12月に長期金利の上昇を容認する事実上の利上げに踏み切ったものの、政策金利はマイナス圏に誘導する方針に変化はなく、低金利政策が金融機関の収益を圧迫する環境は、当面の間続くことが見込まれます。

本会としましては、この局面を乗り越えるため、令和4年度の経営の基本目標に掲げた「中長期ビジョン（目指すべき将来あるべき姿）の実現」に向け、会員・系統団体並びに利用者のご理解とご協力のもと、収益向上と経費削減の両面から即効性の高い各種施策の実践に取り組んでまいりました。

その結果、当年度の本会収支は着実に改善に向かいつつあります。

今後は、もう一段の効率化に向け、常設店舗を基点とした店舗体制から脱却し、低コストかつ浜との接点を維持・強化できる店舗体制を模索してまいります。

また、令和5年度からの会計人監査対応につきましては、昨年、監査人による予備調査が実施されました。

予備調査において、洗い出された課題の対応は年度末までに完了させることとしております。

監査人の選任については、通常総会にお諮りする運びとしておりますが、高度な監査品質を保持する必要から、候補先選定にあたっては、協同組合組織に深い知見を有し、協同組合監査に精通した監査人とすることとしております。

財務諸表の信頼性確保はもとより、監査人との信頼関係を構築し、本会の持続的成長に必要なアドバイスの提供を受けることで、組織基盤の強化を目指してまいります。

一方、漁家経営支援の取り組みとして設置した「融資部兼漁家経営相談室」においては、新型コロナの影響が収まりつつある中、水産物に対する購買意欲の変化への対応として、農林中金・日本政策金融公庫と情報交換を行い、兵庫県内の水産加工品を他県の百貨店へ紹介することでマッチング機会を提供するなど、販路拡大への支援を行いました。

さらに、香美町包括連携協定に係る活動については、未利用魚の活用等の協力を通じ、引き続き漁村地域の活性化に貢献していく取り組みを継続してまいります。

最後に、「愛される浜の金融機関」としてあり続けるために、本年も役職員一丸となって事業運営に取り組んでまいる所存ですので、倍旧のご指導とご鞭撻をお願いするとともに、皆様方のますますのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。

新年のごあいさつ

兵庫県漁業共済組合 組合長理事
川越　一男

謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

新春にあたり、皆様のご健康とご多幸を心よりご祈念申しあげます。

昨年を振り返りますと、何といっても当県において全国初の二巡目開催となった四大行幸啓と称される天皇皇后両陛下の定例地方訪問の締めくくりに当たる「第41回全国豊かな海づくり大会」が11月13日に開催され美しく豊かな海の再生に取り組む姿を全国に盛大に発信を出来たことや世界においてはトンガ沖の噴火に伴う津波や集中豪雨、台風、地震のほか九州地方を中心とした大規模な赤潮などの自然災害が多発し、各地で甚大な漁業被害が発生しました。さらに未だ冷めやらぬ新型コロナウイルス感染症による水産業界への影響や急激な円安、ウクライナ問題、北朝鮮による無謀なミサイル発射などの国際情勢の悪化による燃油及び漁具や資材関係等の価格高騰が続いており、漁家の負担が余儀なく益々増えていることから当事業が漁業経営の役割の重要性を再認識する年となりました。

当事業におきましても令和2年度から実施して参りました「令和の備えも『ぎょさい』と『ぷらす』」をスローガンに掲げた「ぎょさい普及推進全国運動」は、令和4年度が最終年度となります。当県の最終年度は「ぎょさい」で共済金額約323億円、「積立ぷらす」で漁業者積立額約9億円を推進目標に設定し、その達成に向けて残りの3か月も役職員が一丸となって普及推進に努めて参ります。このように不漁や自然災害、コロナ禍など漁業を取り巻く環境が厳しいなか、「ぎょさい」と「積立ぷらす」による補償が漁業経営の継続に役立っている等、漁業者からの高い評価を頂いており、こうしたことも含め、制度の重要性が着実に漁業者に浸透し、近年の共済加入率は高い割合で推移していますが、自然災害対策・漁業経営対策として、漁業経営に欠かせないものとなって来ている昨今、これからも漁業者からの制度への期待に応えていけるよう、事業の実施に努めて参ります。また、国が検討を進めることになっている「漁業収入安定対策の機能強化及び法制化」においても、漁業者の方々に引き続き活用していただけるよう、漁業共済団体として漁協系統・県関係の皆様と緊密に連携しながら、より良い制度の実現に向けて取り組んで参ります。

さて、本年4月以降の新年度からは、新たに普及推進の取組目標を設定し、厳しい漁業経営を取り巻く環境のなかでも漁業経営の機能が発揮できるように、また、「ぎょさい」と「積立ぷらす」が漁業者により一層定着するよう、普及推進に取り組んで参る所存です。皆様には本年も変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

最後になりますが、コロナ禍の影響が続くなか、普及推進にご理解・ご協力頂いている漁業関係者の皆様に厚く御礼申しあげます。新たな一年を迎え、コロナ禍が一日も早く収束することと本年が災害のない豊漁・豊作となることをご祈念申しあげ、新年のごあいさつといたします。

新年のご挨拶

兵庫県農林水産部 水産漁港課 課長
中岸 明彦

新年、明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

先ずは、昨年、天皇皇后両陛下の行幸啓を賜り開催された「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会」を無事成功に導かれた皆様のご尽力に対し、この場をお借りして改めて心からの敬意を表させていただきます。漁業者の皆様の思いが伝わってくる素晴らしい大会であったと、様々な方面から高く評価する声をうかがいました。

県では、この大会を新たな出発点として、大会のテーマであった「広げよう碧く豊かな海づくり」の言葉どおり、漁業者の皆さんが取り組んでこられた「豊かな海づくり」を県民全てが参加する大きな運動に広げ、飛躍させるよう進めて参ります。

具体的には、海浜清掃等を行う環境保全団体、釣りなどの海洋レジャー団体、工場排水を通じ栄養塩類を供給していただく企業など、海に関する幅広い関係者に参加を呼びかけ、新たな推進母体「ひょうご豊かな海づくり県民会議」（仮称）を設立して、海づくりや漁業体験など、豊かな海づくりの理解促進につながる県民参加イベントの開催支援、豊かな海をテーマとした推進大会の開催など、関係者の連携や県民お一人おひとりの実践を促したいと考えておりますので、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

また、運動の推進だけでなく、減少を続ける水産資源の回復、漁業経営の安定継続、操業及び漁村の安全確保など、本県水産業を取り巻く多くの課題に対し、種苗生産、漁場整備、施肥試験など漁業者による海づくり活動の支援、魚食普及やブランド化の支援、代船取得や競争力強化のための機器整備の支援、漁港の耐震化や津波対策などの施策について、職員一同、これまで同様、鋭意取り組んで参ります。

新しい年が、皆様にとってより良き年でありますよう、操業の安全と豊漁を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。

新年のご挨拶

兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター所長
平石 靖人

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、気分新たに清々しい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年の「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会」の開催に合わせて天皇皇后両陛下の地方御視察が当センターにおいて行われましたので、少し紹介させていただきます。

まずは、研究成果「海の貧栄養化とイカナゴ資源の減少の関係性」をパネルで御説明し、両陛下は展示していたイカナゴ保存標本を熱心にご覧になられ、「こちらが栄養豊かな時のものですね。」「こちらはすごく痩せていますね。」とお言葉をいただいたので、「栄養が良い時は肥満度が高く、お腹にたくさんの卵を持ちます。」とお伝えすると、感心されたように何度もうなずかれていました。

ちなみに陛下はＮＨＫ「ダーウィンが来た」のイカナゴ特集もご覧になられていました。

最後に見学された「水産教室」で、両陛下は包み込むような優しさで全児童にお声がけをされました。御発時に、皇后陛下から「子供たちへの水産教室、大切なお仕事ですね。」陛下から「今日は楽しく過ごさせていただきました。今後も豊かな海のためにがんばってください。」というお言葉をいただき、感動・感謝のうちに終了しました。

「全国豊かな海づくり大会兵庫大会」のレガシーを受け継ぎ、当センター施設活用等によるさらなる情報発信に努めなければならないと改めて感じております。

研究面では、漁業法改正に伴う新たな資源管理システムへの対応、栄養塩不足など海域の環境変化への対応など、これらの課題に対して、国・関係機関と連携を密にし、漁業者の皆さまが納得できるように精一杯取り組んでまいりますので、皆さまのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

兵庫の海が豊かな恵みをもたらすとともに、皆さまにとって実り多い年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

全国漁業協同組合連合会 代表理事会長
坂本 雅信

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

振り返りますと、昨年は、本会が皆さまに支えられ、創立70周年を迎えた記念すべき年でありました。改めてこれまでの会員各位のご協力に深謝申し上げます。

漁業を取り巻く環境は、新型コロナウイルスの感染拡大、海洋環境変化に起因する特定魚種における不漁、国際情勢の変化に伴う燃油・資材等の価格高騰など、依然として厳しく、JF全漁連会長就任以降、これらの諸課題に対応するため、JFグループの先頭に立って、対策の確立などを関係要路に強く要請しました。その結果、要望事項を網羅するかたちで、5年連続で3,000億円を超える予算を確保することができました。

また、昨年は新たな水産基本計画がスタートした年でもあります。本計画は、「海洋環境の変化も踏まえた水産資源管理の着実な実施」、「増大するリスクも踏まえた水産業の成長産業化の実現」、「地域を支える漁村の活性化の推進」を柱に、「海業」などの展開も位置づけられました。現在、全国の浜では、その実現に向け、漁業者およびJFグループが一丸となって、創意工夫ある取り組みを実施しており、本会は引き続きこれらの活動をサポートして参ります。

私は会長に就任してから「日本の漁業にはポテンシャルがある」ということをさまざまな機会に申しあげて参りました。日本の漁業はもともと豊かな海に囲まれた中で生まれた産業であり、多種多様な魚が日本の食文化を支えてきました。我々は、今後も将来にわたって、この資源をより有効に活用し、国内外の多くの人たちに全国の浜に出かけていただき、日本の水産物を食べていただけるような取り組みをサポートして参る所存です。併せて、プライドフィッシュプロジェクトや産直通販サイト「JFおさかなマルシェギョギョいち」などを通じて、国産水産物の消費拡大の一翼を担って参ります。

このほか、JFグループの運動方針に則り、担い手育成、合併等組織再編、産地市場統合、販売事業改革、浜プランの後押しなどに取り組み、浜の構造改革を実現して参ります。

東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の問題については、「全国の漁業者・国民の理解を得られないALPS処理水の海洋放出に反対」という立場に変わりありません。我々が国に対して求めていた5つの要望に対する回答の1つである超大型基金が昨年度補正予算で措置されましたが、引き続き、残る4項目の申し入れ事項である漁業者・国民への説明、風評被害対策、ALPS処理水の安全性の担保等について、国に真摯な対応を求めて参ります。

JFグループ関係者の皆さまにおかれましても、これまで以上に英知と総力を結集していただき、本会の活動に対して、引き続きのご協力・ご賛同を頂きたくお願い申しあげます。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

3か年計画の総仕上げ

全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長
楠田 勇二

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、浜の皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素よりJF共済に格別のご高配を賜わり、心から厚く御礼申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された、また、台風や地震等の自然災害により被害に遭われた全国各地の漁業関係者ならびに地域住民の皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げますとともに、未だ不自由な暮らしをされています方々へ、一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症については、国内では2022年3月21日をもって行動制限（全ての都道府県のまん延防止等重点措置）が解除され、その後外国人観光客受け入れの緩和、各種イベントの再開等、徐々に日常生活、社会活動がコロナ禍前の状態に戻りつつあります。一方、高齢化や漁業従事者の減少、海洋環境の変化に伴う記録的不漁が続き、新型コロナウイルスによる魚価の下落や、ロシアのウクライナ侵攻や円安等の影響による資源価格の高騰など、漁業者やJFを取り巻く環境は行き先が見通せず、厳しい状況が続いています。

こうした中、2022年3月25日に「新たな水産基本計画」が閣議決定されました。この計画では、今後10年程度を見通し、海洋環境やとりまく社会・経済の変化など水産業をめぐる状況等を考慮し、持続性のある水産業の成長産業化と漁村の活性化の実現に向けて、① 海洋環境の変化も踏まえた水産資源管理の着実な実施、② 増大するリスクも踏まえた水産業の成長産業化の実現、③ 地域を支える漁村の活性化の推進の3本の柱を中心に諸施策を展開していくとしています。

JF共済では、3か年計画「浜の安心を未来へ～ひろげよう共済の輪～」において、浜のあんしんサポート運動を展開し、JF共済の輪の拡大、JF・JF共水連が一体となった共済推進体制の整備、JF共済事業をささえるJF役職員・JF共水連職員の育成などの重点取組施策を展開しています。その最終年度となる2022年度は、各施策を着実に実施するとともに、JFの厳しい経営状況を受け、共済事業の事業収益によりJFの安定的な経営を支えるための取組みを、各都道府県のJF共済推進本部を中心に進め、共済事業量目標達成に向けて邁進してまいります。

JF共済は、これからも引き続き「浜のあんしんサポート運動」を展開し、組合員・地域住民の皆様のニーズにあった保障を提供し、共済・保障を通じて浜を守るために役職員一同取り組んでまいります。関係者の皆様のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

受賞者の皆様（前列 左から福山様、小林様、谷口様）

県農林水産業の功労者表彰 “令和４年度 兵庫県水産賞” 受賞者決定

永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の３賞表彰式が、令和４年12月15日（木）県公館（神戸市中央区）で行われました。

今年度の兵庫県水産賞はＪＦ林崎 福山晃一さん、ＪＦ由良町 谷口恒彦さん、ＪＦ但馬 小林東洋志さんの３名の方が受賞されました。表彰式では服部洋平副知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。

受賞されました皆様には、心よりお慶び申し上げます。

氏名	所属	功績内容
福山 晃一（ふくやま こういち）	ＪＦ林崎	のり養殖漁業の振興と漁協経営の安定化に貢献
谷口 恒彦（たにぐち つねひこ）	ＪＦ由良町	小型底びき網漁業における資源管理の推進と漁協経営の安定化に貢献
小林 東洋志（こばやし とよし）	ＪＦ但馬	沖合底びき網漁業の振興と漁協経営の安定化に貢献

（敬称略）

虹の仲間で森づくり ～神出神社（神戸市西区）周辺で開催～

ＪＦ兵庫漁連

12月3日、神戸市西区にある雌岡山（神出神社周辺）で「虹の仲間で森づくり」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小しての開催となりましたが、ＪＦ兵庫漁連 田中久善部長より挨拶を、またＮＰＯ法人「ひょうご森の倶楽部」山下広行会長より作業の注意事項の説明をいただき、その後、全員で準備運動を行いました。

開会式終了後、ヘルメット姿の参加者は11班に分かれ、ひょうご森の倶楽部の指導員の方々に誘導され、次々に森に入りました。指導員の方から作業の説明を受け、参加者は周囲に気を配りながら、広葉樹や花の咲く樹を残し、常緑樹や蔓性の植物を除伐します。約1時間半の作業を終えると、参加者の皆様から「目に見えて日が差し込むようになった」と嬉しそうな声が聞こえてきました。

除伐作業終了後は、兵庫のりやコープこうべの店頭で購入することができる県産水産物の加工品、アナゴ丼等を配布して短めの昼食・交流会を行い、生活協同組合コープこうべ 金子博子理事より閉会の挨拶をいただきました。

先月11月に全国育樹活動コンクールにて林野庁長官賞を受賞した本活動ですが、何度も繰り返しご参加いただいている方が多い印象です。コロナ禍により通常通りの開催はできませんでしたが、参加者の皆様には海と森のつながりを体感できる活動になったのではないかと感じています。

いかなご盛漁期における事故について

神戸海上保安部

近年、漁業関係者等の皆様のご尽力により、２月頃から４月頃にかけて大阪湾及び播磨灘、明石海峡で行われるいかなご漁「船びき網（2そう曳き）」にかかる船舶事故は発生していません。しかし過去（平成28年以前）には度々、霧などによる視界制限状態での見張り不十分や灯火、網の位置の誤認等による衝突事故が発生しています。

今シーズンも無事故で「いかなご漁」が終えられますよう、付近航行船舶が「霧などによる視界制限状態」「網の存在に気づかず直進」、「思わぬ方向に急に変針する」等で接近してくることを念頭に、漁船側においても、手船（警戒・運搬を行う漁船）と連携して周囲の見張りを行い、接近してくる船舶からの危険回避を目的に早い段階で避航できるよう操業をお願いします。

啓発リーフレット

いかなご盛漁期における事故発生状況

注：神戸海上保安部管内

番号	発生年月	事故概要
①	平成18年3月	霧による視界制限状態における貨物船と船びき網漁船の衝突
②	平成18年3月	霧による視界制限状態における貨物船と手船の衝突
③	平成19年3月	漁場移動中の手船とはしけの衝突
④	平成25年2月	操業中の船びき網漁船と移動中の手船の衝突
⑤	平成28年3月	航行中の貨物船と操業中の船びき網漁船の衝突

ＪＦ兵庫漁連 第47回通常総会 開催

ＪＦ兵庫漁連

ＪＦ兵庫漁連は12月8日、神戸市内のホテルにおいて、第47回通常総会を開催しました。

開会にあたり、田沼会長より「11月13日に天皇皇后両陛下を明石にお迎えし、全国豊かな海づくり大会兵庫大会が盛大に開催され、漁船パレードや放流事業など、両陛下より非常に素晴らしい大会だったとのご感想をいただきました。加えて、大会を契機に全国に先駆け10月に策定された栄養塩管理計画など、県や漁業者の豊かな海づくりに向けた取り組みを広く発信できました。また、第47期における本会の事業は、のり養殖は、序盤から栄養塩が少なく、生産数量・金額ともに伸び悩みましたが、流通加工事業において、新商品の開発が販路拡大につながったことや輸出などの売り上げ拡大により、黒字決算ができました。これもひとえに、会員の皆様方のご協力・ご支援のおかげと厚く感謝申し上げます。」と挨拶をされ、続いて来賓代表として、兵庫県農林水産部岡次長から祝辞を賜りました。

第47期の事業実績は、事業総取扱高236億1千1百万円、経常利益1億1百万円（計画対比8千5百万円増）となり、47期事業報告、48期事業計画等、上程した6議案は全て可決承認されました。48期においても、漁業者が安心して沖に行けるよう、役職員一同今後も引き続き、漁業の発展に取り組んで参ります。

Fish-1グランプリで準グランプリ受賞

ＪＦ兵庫漁連

11月21日に本年で第8回目となるＦｉｓｈ－１グランプリが開催されました。

２０２０年度・２０２１年度はコロナ禍の影響でオンラインでの投票でしたが、本年は2年ぶりに東京日比谷公園での開催となりました。

今年度のプライドフィッシュ料理コンテスト本選出場を果たしたのはＪＦ兵庫漁連のハモカツ丼をはじめ、ＪＦ佐賀有明の佐賀海苔チーズケーキ・ＪＦ京都の京鯖3種盛りアカモクを添えて・ＪＦいしかわの金沢発 甘えびビシソワーズ・ＪＦ千葉漁連の勝浦釣り寒マカジキのネギマ丼・ＪＦやまがたの荘内浜の天然プライド鮨の計6種でした。

当日は開会から閉会まで当時開催の国産水産物加工品コンテストとともに客足が衰えることなく大盛況のうちに終了しました。

ＪＦ兵庫漁連はコロナ禍のオンライン開催も含め5回目の出場で、惜しくも準グランプリとなりました。

ＪＦ兵庫漁連ＳＥＡＴ－ＣＬＵＢでは今後もプライドフィッシュをはじめ兵庫県産水産物の消費拡大に取り組んでまいります。

ハモカツ丼

ようそろ

～ずっと真っ直ぐに～

（ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる）

地図アプリの有効活用

一般財団法人 兵庫県水産振興基金　山内 魁人

はじめまして、新年あけましておめでとうございます。兵庫県水産振興基金の山内と申します。私は昨年の6月にJF兵庫漁連から出向で当基金に参り、この拓水を担当させて頂いております。どうぞよろしくお願い致します。今年でJF兵庫漁連に入会してから2年目という事で、自己紹介を兼ねて私の習慣について寄稿したいと思います。

私はよく学生の頃から「日本人？留学生？」と聞かれることが多々あります。どうやら東南アジア系の顔立ちをしているようで、夏場は日焼けも相まってベトナム出身の方にベトナム人と間違えられるほどです。顔写真はW杯カタール大会において、日本代表がドイツ代表に勝利を収めた際の写真で、サッカーが好きな私にとっては忘れられない最高の瞬間のひとつになりました。

さて、習慣といっても大したものではないのですが、皆さんはGoogle Mapはご利用でしょうか。Google Mapには、施設、またはマップ上にピンを立てることができ、検索をしなくてもピンを立てておけば該当する場所が分かる機能があります。

私はこの機能を活用し、飲食店、観光地、銭湯、古着屋など様々なジャンルに分けて訪れた場所にピンを立てることを習慣にしています。また、ジャンルごとにリスト化もしてくれるので、暇なときにリストを開いて思い出に浸ったりしています。ちなみに学生の頃ひとり旅で訪れたカンボジアやベトナムにもピンが立っており、海外進出もしています。

もうひとつ「行ってみたい場所」のピンを作っており、例えば三ノ宮に行ってご飯どうしようかとなった時は、リストを開いて気になっている店を思い出したりしています。実は人生で東京に一度も行ったことがないのですが、いつか東京に行ったらと思いながらSNSや友人の口コミを情報源にして、行ったこともない東京にたくさんピンを立てています。

是非、自分が訪れた場所や行ってみたい場所にピンを立ててはいかがでしょうか。また、飲食店や観光地など世界各国どこでもいいので、おすすめのスポットがあれば教えていただきたいなと思っています。

最後に、至らぬ点が多々ございますが、今年も1年よろしくお願い致します。

第41回 ディスプレイ産業賞受賞報告会が行われる

漁連の魚屋 加古川店

ディスプレイを通じて生活文化の向上および国土景観の発揚に寄与することを目的とするディスプレイ産業賞において、漁連の魚屋 加古川店が第41回ディスプレイ産業賞を受賞し、12月9日に同店舗で受賞報告会が行われました。そのほか、第56回日本サインデザイン賞 銅賞と諏訪光洋賞を受賞、日本空間デザイン賞に入選するなど、漁連の魚屋の店内空間が高く評価されています。

受賞報告会にはJF兵庫漁連から、専務理事 突々淳氏、常務理事 田中稔彦氏、流通加工部 部長 渡部恭広氏、漁連の魚屋 加古川店 店長 仲山逸男氏、株式会社スペースから、田中三弘氏が登壇し、田中三弘氏から突々専務に受賞報告がされました。

突々専務から、「商品の価値を分かってもらう売り方をしていきたい。また、魚の発見の場を作り、より多くの人に知ってもらい、調理場を手元まで見える作りにしたように昔ながらの食べ方を教えられる店を目指していきたい。」と述べられました。

ブランディングを務めた田中三弘氏から、「店内のこだわりの点としてイカ釣りの集魚灯を使用しお客様が寄ってきてくださるように設置した照明、レジ周辺に昔の漁師が仕事着として着用していた〝どんざ〟をモチーフにした〝どんざタイル〟の使用、市場で使用するような箱を商品棚にするなどして、店内に臨場感が出るようにした。」と述べられました。

漁連の魚屋はインスタグラムで、おすすめの魚、魚のおいしい食べ方などの情報発信を行っています。是非QRコードからフォローお願いします。

漁連の魚屋
インスタグラム

左から 田中三弘氏、突々淳氏、田中稔彦氏、渡部恭広氏、仲山逸男氏

JA

60年以上続く「清水いちご」の伝統を守る

明石市魚住町清水地区で栽培される「清水いちご」は、ほ場で完熟させてから収穫し、一番おいしいタイミングで消費者に届けるため、遠方への出荷はできず、JAの直売所を中心に出荷されることから「幻のイチゴ」と呼ばれています。

清水いちご生産者5人で構成される清水いちご出荷組合の組合長を務める橋本竜介さんは、現在2万5千株のイチゴを栽培し、同JA直売所に出荷しています。

橋本さんは、土耕栽培と呼ばれる伝統的な方法で生産しており、「土耕栽培は、作業姿勢が低く、労力が大きい。気象条件にも左右されやすく管理が難しい。しかし、土から豊富な栄養分を吸収するため、甘味が深いイチゴが生産できる」と話します。

JA兵庫南明石播磨営農経済センターの平川冬木さんは、肥料会社と協力し、イチゴ栽培に必要な栄養素を土壌分析によって調査し、適切な肥料の提案を行っています。

また、平川さんはイチゴ苗根元の花芽形成を顕微鏡で確認する花芽検鏡を行い、花芽の分化の状態を確認して、適切な定植・収穫時期を判断し、収穫量を確保できるよう支援します。

今後も、JA兵庫南は清水いちごの伝統とブランドを守り、「おいしい」といわれるイチゴを提供し続けるため、土壌分析や花芽検鏡等に取り組み、適切な営農指導を行います。

清水いちごの生育状況について話す橋本さん（左）と平川さん

https://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

生協

ピースアクション2022 第2弾

「歩いて学んで 戦跡ウォーク ～クイズを解きながら神戸の街に残る戦争遺跡をまわろう～」を開催

兵庫県生協連では、戦争の悲惨さを学び平和の大切さを考え確かめ合う場として「ピースアクション」の取り組みを行っています。今年度の取り組み第2弾として2022年11月6日、神戸空襲の戦跡のうち中央区の7か所を巡りながらクイズを解くウォークを開催しました。

まずグループに分かれ、学生委員の先導で最初の目的地大倉山公園に向かいました。金属供出のためになくなった伊藤博文像の台座や、敵の飛行機を撃ち落とすための高射砲陣地などの戦跡を巡り、神戸空襲犠牲者のお名前を刻銘した『いのちと平和の碑』では、神戸平和マップをつくる会の小城智子さんからお話を聴きました。その後、焼夷弾の跡が残る八宮神社や日本基督教団神戸教会に向かい、兵庫県民会館では神戸空襲の地図やパネル展示から当時の様子を学びました。今回は、募集チラシ制作とクイズ考案、そして引率も大学生協の学生事務局と学生委員8人が関わり、当日はピースアクション実行委員と協働しながら参加した組合員と平和への想いを共感しあう時間をもつことができました。

▶『いのちと平和の碑』で小城さんの話を聞く参加者

◀自分達で考えたクイズを出す大学生。説明も完璧！

https://www.coop-hyogo-union.or.jp/

表紙の言葉

虹の仲間で森づくり（神戸市西区 神出）

約70人が参加した「虹の仲間で森づくり」は、今年で16回目の開催を迎えました。参加者の中には親と参加する小学生の姿も見られ、勾配が急な斜面での除伐作業でしたが、ひょうご森の倶楽部の指導員の方々からアドバイスを受けながら、大人顔負けの体力で楽しそうに木を除伐していました。

なぜ貧栄養化が進んできたのでしょうか？

兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター 技術参与 反田 實

今回は、貧栄養化がなぜ進んできたのかを考えたいと思います。貧栄養化とは海の窒素やリン濃度の低下を指しますが、ここでは主に窒素について書きます。貧栄養化に対処するためには、その原因を明らかにしなければなりません。もし複数の原因が考えられるならば、対処法があるのかどうかや、その有効性を検討したうえで、対策を選ぶことになります。

● 瀬戸内海への窒素の供給源について

瀬戸内海への窒素の供給源は、大気、外海、海底、陸の4つです（図1）。これらのうち制御の可能性があるのは陸からの供給です。他の3つは現時点では制御不可と言えます。以下にそれぞれの供給源の特徴について簡単に紹介します。

図１　瀬戸内海への窒素の供給源

大気から：乾燥状態の大気は容積の78%が窒素ガスです。残念ながら、この窒素は水にほとんど溶けず安定していて、生物は利用することができません。ただ、雷のように大気に高電圧が加えられたりすると一部は生物が利用できる反応性窒素に変化し、大気中の煤塵に含まれる窒素などとともに降雨によって海に供給されます。しかし、その量は他の供給源に比べて少なく制御も困難です。

外海から：瀬戸内海の栄養塩類のうち外海起源の割合がどの程度なのかを調べた報告がいくつかあります。報告の数値には幅がありますが、平均的には50～60%と推定されています。

外海水が瀬戸内海に入ってくるルートは紀伊水道と豊後水道です。関門海峡も外海に面していますが量的に僅かです。紀伊水道沖の表層には高水温・低栄養の黒潮が流れていますが、その下の水深100～200mより深いところには低水温で栄養に富む海水（深層水）があります。この海水が紀伊水道の下層を通って大阪湾に入ってくるのですが、黒潮が紀伊水道沖で離岸したときには、内海の表層水が沖合に引っ張られ、それを補うように深層水が大阪湾に進入してくることが知られています（図2）。

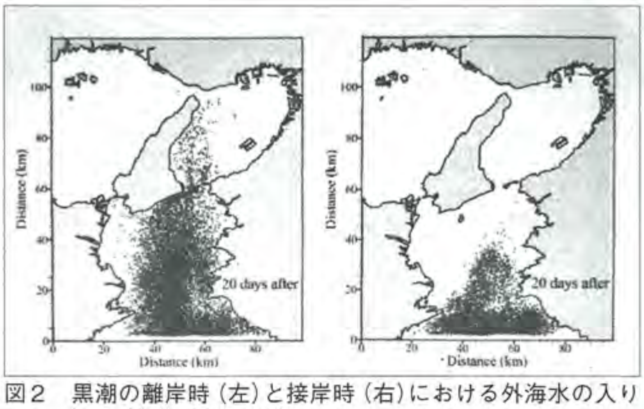


図２　黒潮の離岸時（左）と接岸時（右）における外海水の入り込み（中谷 2012より）

このような外海水の影響を人為的に制御することはできません。

海底から：海底からの供給とは、海底に堆積した泥から徐々に栄養塩類が溶出することを言います。溶出に関する情報は少ないのですが、量的に多いという報告があります。富栄養な時代に堆積した泥からはより多くの栄養塩類が溶出すると考えられますので、経年的に低下している可能性がありますが良くわかっていません。底泥からの溶出は、系外（陸や外海）から流入した栄養塩類が内海で循環するプロセスの一部という見方もできます。底泥に関しては局所的対応が可能かも知れませんが、海域全体の

栄養塩類濃度の管理という視点からは制御は難しいと言えるでしょう。

陸から：陸からの負荷量と海域の窒素濃度との間には明瞭な関係が認められています。その代表的な例が環境省の審議会資料として公開されている図3です。東京湾、大阪湾、伊勢湾とも海域の単位面積当たりの窒素負荷量が年代を経るごとに低下していますが、それに伴い、海水中の窒素濃度も下がっています。瀬戸内海（大阪湾を除く）はもともと窒素負荷量が少なく、この図では変化の様子が見えにくいので別に示しました（図4）。図には大阪湾も示していますが両海域とも1990年代後半から窒素負荷量が低下し、それに合わせるように、海の窒素濃度が低下しています。ちょうどこの頃、重要な環境施策が相次いで実施されました。1993年には窒素排出濃度規制が始まるとともに、窒素、リンの環境基準が設定されました。また、1996年に窒素削減指導が始まり、2001年には窒素、リンの総量削減制度がスタートしました。このような施策の実施が窒素負荷量の低下につながったと推測されます。さらに、もう少しローカルな視点で陸からの影響を見たいと思います。図5は姫路の年間降水量と12月の播磨灘表層の窒素濃度（溶存無機態窒素：DIN）との関係を表したものです。図の変化をご覧いただければ分かりますように、雨が多かった年は12月のDIN濃度が高くなる傾向があります。雨が降ると、森、田畑、市街地などの表面を洗い流すように窒素が海に運び込まれ、海の窒素濃度に影響することをこの図は表していると考えられます。12月はノリ養殖の本張りの開始時期です。漁業者の皆さんからは、雨が多く降った年はノリ養殖や漁模様が良いと言う声を聞きますが、雨によって海が豊かになることを実感されているのでしょう。しかしながら、2000年代に入る頃から、降雨量の割にDIN濃度が上がらなくなってきています。陸域の発生負荷量の低下が影響している可能性が考えられます。

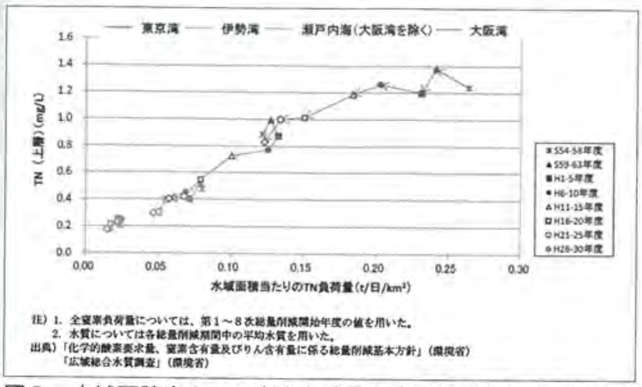


図3　水域面積当たりの窒素負荷量と窒素濃度の推移（環境省2020より）

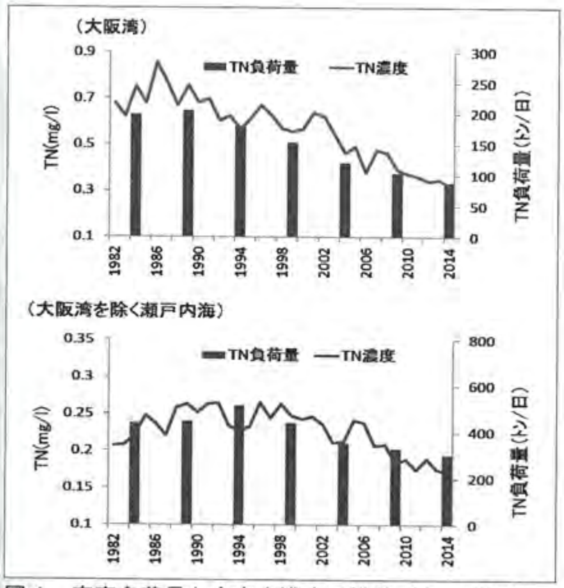


図4　窒素負荷量と全窒素濃度の推移（上：大阪湾、下：大阪湾を除く瀬戸内海）

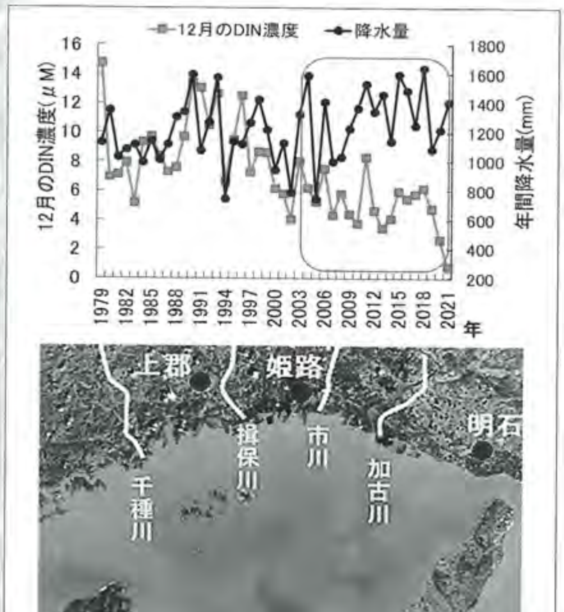


図5　降水量（明石、姫路、上郡の年降水量平均）と播磨灘の窒素濃度（DIN）の推移
枠で囲った部分：2000年代は雨の割にDIN濃度が上がらなくなっている

栄養塩類の管理

大気、外海、海底、陸の4つの供給源の特徴を述べました。それらから、貧栄養対策として最も重要なのは陸域からの供給であることが分かります。理由は、海の窒素濃度との関連を示す情報が最も多いこと、さらに、現時点において唯一、管理（制御）の可能性があることです。したがって、兵庫県が貧栄養対策として栄養塩類管理計画を策定し、その主軸に負荷量管理を据えていることは大変合理的です。しかし、陸以外にも栄養塩類濃度に影響を与える原因はありますので、今後は綿密なモニタリング調査により施策の影響と効果を評価し、それらを取り入れて負荷量管理の強弱などの対策を柔軟に（順応的に）行い、豊かな海の実現を目指すことが大切です。

旬に想う　写真と文 遊方子

魚偏に師（ぶり）

◆鰤は出世魚として知られている。豊臣秀吉が日吉丸・木下藤吉郎・羽柴秀吉…と名前を変えたのに倣って、関西ではツバス・ハマチ・メジロ・ブリと名前が変わるため出世すると考えていう。夏の名残りがある頃、一本釣りで鰤の一歳魚ツバスが獲れる。地方によって呼び名が違うが、日本列島を南北に移動する回遊魚だから、内海に入ってくるのはツバスかハマチである。産卵後にブリは味が落ちるが、若々しいツバスは養殖のハマチより脂が乗り過ぎていないため、刺し身にして夏にも美味しいから、消費者には有り難い存在である。

◆鰤の旬は寒い師走だから、魚偏に師を充てる。透明感のあるピンク色の血合い肉はタウリンの宝庫で、血液中のコレステロールを下げ、血圧の正常化を図って視力の回復にも効果が期待できる。DHAとEPAは酸化し易いが、ブリにはビタミンEが多くて酸化防止に一役かってくれる。これは嬉しい。鮮やかな赤みで食欲がそそられる。脂の乗った寒気厳しい季節に食べたいもの。3月には産卵期に入るため、味が落ちる。

◆魚卵はサカナの餌として食物連鎖の重要な位置にあり、犠牲になる事を承知で沢山の卵を産む。マンボウは3万個も産むが生長するのは数匹というし、他の魚も似たような生育をしている。秋田音頭にいうブリコは鰤の卵でなくハタハタの事だが、魚卵ではタラコや数の子が人間サマにも御馳走になり、ボラの卵巣を塩漬けしたのが三珍味の一つ「カラスミ」になり酒の肴として珍重される。因みにあと二品は越前のウニと尾張のコノワタだ。歳末、明石の魚の棚を通ると活気が伝わってくる。数の子が店頭に山積みされ値も高い。鰤も迎春の一品とし、切り身になった売れ筋に並び、祝い魚だ出世魚だと売り手も声を枯らす。呼び声にも勢いがあって歳末に相応しい景色を醸していた。

◆平社員が主任・係長・課長・部長と肩書きを変え出世街道をゆく。周囲の眼差しも変化して給金が上がって嬉しい。ボラやスズキも成長につれ名を変える事から縁起の良い魚という。ボラの大きなのをトドと称するが、ボラには下魚イメージが強くて泥臭いという先入観で敬遠する向きが多い。食べた人の話では驚くほど美味しいから、自然界の無添加優良魚種として推奨できるという。スズキの若魚がセイゴで釣り人に人気があり、味は夏から秋がいい。鰤は正月の魚として店頭で宣伝されるが殆どが養殖ものであり、刺し身の定番になったハマチの養殖は昭和2年に香川県で始めて急速に発展した。トロ味が実に良く常に安定した品揃えで歓迎される。

ウィンドサーフィン（松江海岸）

保存版

今が旬の魚介で作る!!

簡単!!魚介レシピ

イイダコチリ

今が旬のイイダコをエビチリ風に♪
とっても手軽に作れて食べごたえあり!!
我が家の定番料理になること間違いなしです！

材料（2人分）

イイダコ	300ｇ
塩	適量
コショウ	適量
片栗粉	大さじ3
揚げ油	大さじ2
ニラ	3本
サラダ菜	適量
ニンニク	小さじ1
生姜	小さじ1
鷹の爪	1本
豆板醤	小さじ1/2
サラダ油	大さじ1
A) ケチャップ	大さじ3
A) 砂糖	大さじ1
A) みりん	大さじ1
A) 中華だし	小さじ1
A) 水	100 ㎖

POINT
揚げ油の油はね防止の為、しっかりと水気をとる!!

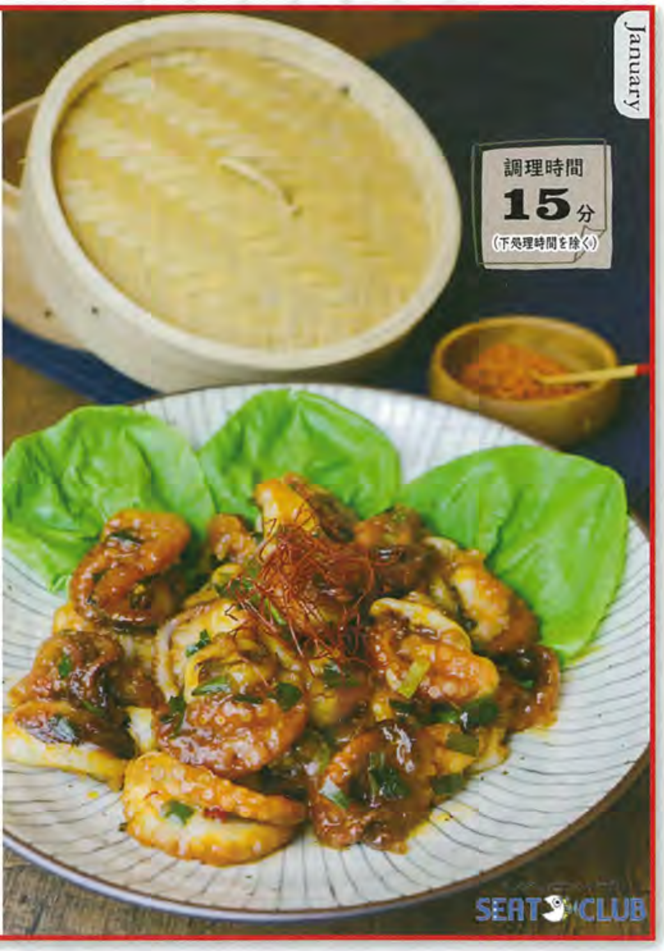
POINT
イイダコを丸めて揚げると歯ごたえUP!!

作り方

1. イイダコの墨袋を取り、塩でぬめりを取り除き、洗って水気を拭き取る。
2. 縦半分または4等分に切って、くちを取り除く。
3. ボウルにイイダコを入れ、塩、コショウを少々し、片栗粉を振り混ぜて絡める。
4. フライパンに揚げ油を熱し、イイダコを丸めながら入れて揚げ焼きにする。
5. ニラは1㎝の小口切りにする。鷹の爪は種を除き小口切りにする。
6. フライパンにサラダ油、ニンニク・生姜のみじん切りを入れて弱火で熱し、鷹の爪・豆板醤・ニラを加え、軽く炒める。
7. 混ぜ合わせたAを加え、ひと煮立ちしたら水溶き片栗粉（片栗粉小さじ1＋水小さじ1）でとろみをつけ、③のイイダコを加えてソースを絡めできあがり♪

［1人分 302kcal］

冷凍するとぬめりがとれやすくなります!!



発行：一般財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673－0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2Ｆ　TEL 078-919-1331　FAX 078-919-1336